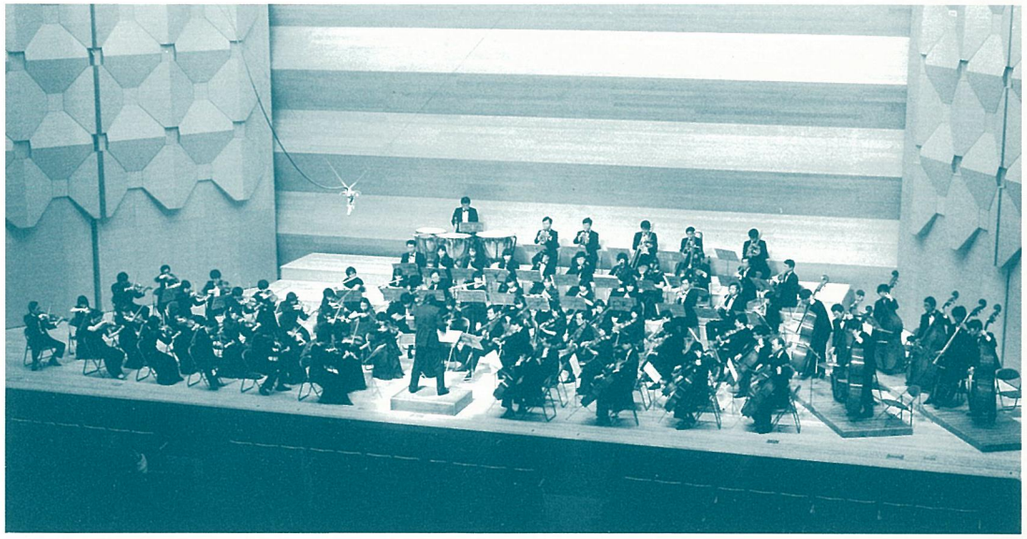
倉敷管弦楽団

「美しい音色と良いアンサンブルで質の高い演奏を」を合言葉に昭和49年設立の倉敷管弦楽団は、文化都市倉敷にふさわしい若さと熱気に満ちた楽団です。バロックから現代曲までの幅広い演奏活動で昭和57年には岡山県文化功労賞、昭和60年には倉敷文化連盟賞を受賞し、将来を大きく期待されています。

各地で活躍中の指揮者を客演指揮者として招き、フルートの世界的巨匠ジャン・ピエール・ランパル氏との共演をはじめ、各地で活躍中のソリストや岡山県内で活躍中の音楽家達との共演や、團伊玖磨氏作曲の「管弦楽のための高梁川」の初演、創立10周年記念の400名から成る第九演奏会、中国二期会とのオペラ「魔笛」、また、瀬戸大橋開通を記念して、小六禮次郎氏作曲の交響詩「瀬戸内賛歌」の発表を行うなどそれぞれ注目の的となる多彩な演奏活動を続けています。



岡山県郷土文化財団

岡山県郷土文化財団は、郷土岡山の美しい自然や先人から受けついだ文化遺産を大切に護るとともに、伝統に根ざした新たな地域文化を創造していくために昭和54年11月に設立されました。

発足以来、多くの方々の御協力をいただき「うるおい」と「やすらぎ」のある郷土づくりに役立つように、各種の事業を実施してまいりました。これからも、県下各地の皆様と手を携えて、美しく豊かな郷土づくりを目指してまいります。財団には、どなたでも会員として加入できますので、加入御希望の方は、下記に御連絡ください。

連絡先　〒700 岡山市天神町5－18
電　話　(086)233－2505

KAWAKAMI CLASSIC CONCERT

かわかみ ――マンガ文化の町――
クラシックコンサート

- **日時／平成4年11月29日(日)**
  - 開場/13時30分　開演/14時00分
- **会場／川上町総合学習センター**
- **出演／倉敷管弦楽団**(指揮者 菊池 東)

主　催

岡山県郷土文化財団・川上町・川上町教育委員会・川上町生涯学習推進本部

KAWAKAMI CLASSIC CONCERT

ごあいさつ

川上町長　佐　藤　呈　次

この度、岡山県郷土文化財団の御協力をいただき、倉敷管弦楽団の指揮者菊池東先生をはじめ62名の方々をお招きして、クラシックコンサートが開催できますことをたいへん嬉しく、心から感謝申し上げる次第でございます。

芸術は、心に潤いと活力を与え、幅広い人との交流が生まれます。本町の「活力あふれる町」とは、まさに、一人ひとりの学習活動を通して、生きがいを見出し、地域やグループの活発な活動を促すことにあります。

今後とも、この総合学習センターを大いに利用していただき、潤いと活力を養っていただくことを祈念してごあいさつといたします。

指揮者のプロフィール

指揮者 菊池　東（きくち とう）

昭和23年玉島に生まれ、5歳の時よりヴァイオリンを始める。在学中、広島大学室内合奏団の指揮者としてクラブ活動を続けるかたわら、広島交響楽団の団員として活躍。

広島大学工学部卒業後上京し、東京都民交響楽団のサブコンサートマスター、モーツアルト室内管弦楽団のコンサートマスターetcを経験し昭和48年帰岡。昭和49年、仲間と共に倉敷室内管弦楽団（現倉敷管弦楽団）を創設以来、同楽団の常任指揮者として活躍、また、ヴァイオリン奏者として倉敷音楽協会、楽興の会etcの演奏会でソロ室内楽の演奏活動も続けている。

また、平成元年度より毎年春・秋と玉島蔵のなかコンサートを企画、本年10月にはヴァイオリンリサイタルを開催し好評を得る。

演奏会プログラム及び曲目解説

A

モーツアルト作曲（1756〜1791）
ディヴェルティメント（嬉遊曲）　二長調 K.136

オーストリアのザルツブルクで生まれたヴォルフガング・アマデウス・モーツアルトは、幼い頃から神童ぶりを発揮し、音楽史上でも特にきわだった天才といわれています。
わずか3才の時、姉のピアノの勉強をかたわらで聞いていただけで、そのあと、ひとりで演奏したという話が伝えられています。
1772年、第2回目のイタリア旅行からザルツブルクに帰った16才のモーツアルトは、3曲のディヴェルティメントを作曲しました。いずれも、二つのヴァイオリンとヴィオラとバスの四つのパートで作曲されており、その中で、最もよく演奏される曲が、このK.136の曲です。
曲は、緩〜急〜緩の3つの楽章からなりたっています。

B

ドビュッシー作曲（1862〜1918）
小組曲

ドビュッシーはフランスの作曲家で、この小組曲は、1889年に、ピアノ連弾曲として作曲されました。ドビュッシーのピアノ曲は、洗練された高雅なスタイルによって親しまれておりますが、この曲はドビュッシーが、まだ徹底した革新を打ち出す前の、サロン風の家庭音楽にふさわしい軽やかな旋律と、爽やかな詩情をただよわせた魅力的な作品です。
この小組曲は、のちにアンリ・ビュッセルによって管弦楽のために編曲されたほか、いろいろな楽器のために編曲されております。
全体は次の4曲からなりたっており、4曲が、それぞれ独立した小品ながら、全体が組曲としてのまとまりを示しており、4曲のほとんどが舞曲調の情趣を備えています。
① 小舟にて　② 行列　③ メヌエット　④ バレエ

C

ベートーヴェン作曲（1770〜1827）
交響曲 第8番　ヘ長調 作品93

ベートーヴェンが作曲した九つの交響曲のうち、第8交響曲は第7交響曲に引きつづいて、おなじ時期に作曲されました。この交響曲の構想は、ベートーヴェンが文豪ゲーテと歴史的な出会いをした保養地テプリッツでの滞在中に練られ、オーストリア北部の街リンツで完成しました。
自筆の楽譜の表紙には「交響曲、リンツにて1812年10月」と書かれています。この曲は、第7交響曲とおなじ時期に作曲されながら、かなり性格を異にしています。
第7交響曲の長大で華美であるのに対して、第8交響曲はそれほど華美ではないが、優雅な中にも、意外に強靭な底力を秘めた曲です。初演は1814年ですが、第7交響曲の後であったためか、その時は不評であったそうです。しかし、ベートーヴェンは「だからこそ、この曲はいいのだ」と、つぶやいたそうです。曲は4つの楽章から成り立っています。